



踏切の警報機

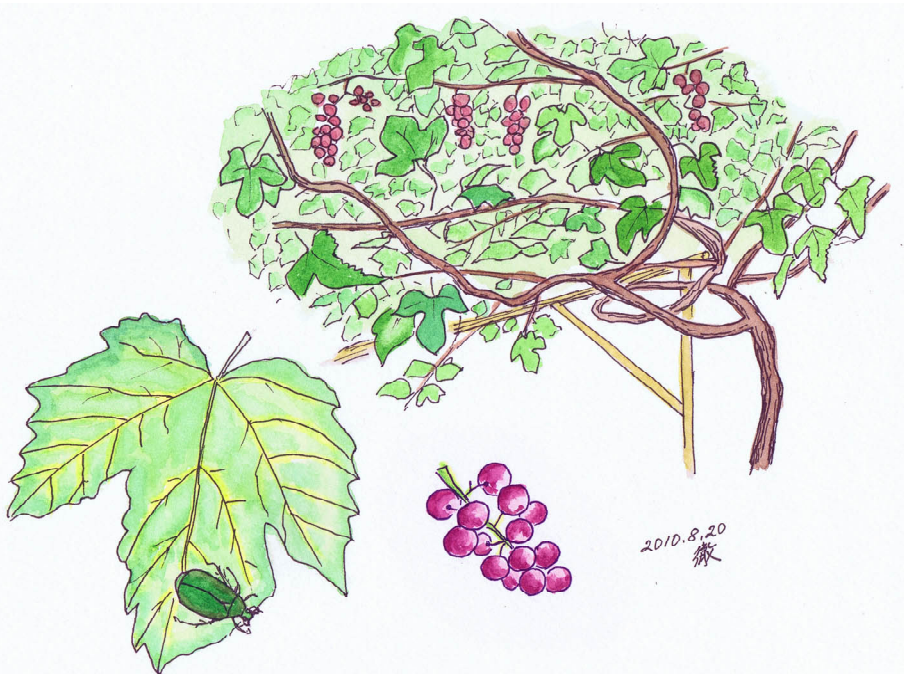
弘明寺駅の脇の踏切は、共産党六ツ川後援会などの運動があって、人の通るところが広く改修されることになったそうです。踏切で溜まった人が一斉に通るので、これは朗報ですね。

ところで、この踏切の警報機ですが、遮断機が下り始めてから、電車が通り過ぎ、遮断機が上がるまで鳴り続けています。踏切で電車の通過を待っていると、ガオン、ガオン、ガオンと云う音で、何だか、頭がおかしくなります。

考えてみると、遮断機が下りるまでは「電車

が来るよ、遮断機が下りるよ・・・」と知らせる為に、ガオン、ガオンと鳴る必要がありますが、遮断機が下りてしまえば、もう渡る人は居ません。遮断機が下りたら警報音が鳴る意味はありません。確かに目の不自由な方の為には警報音が必要でしょう。でも、そうであれば、遮断機が下りた後は音量を下げても良いではありませんか？

皆さんはどう思われます？



蒼黄金虫との闘い

我が家のデラウエア

二〇一〇年八月二〇日

十年前前、日除けにとデラウエアを植えた。今では不揃いながらも甘いおいしい葡萄が食べられる。

植えてすぐ、葉を食い荒らす蒼黄金虫(アオコガネムシ)に取りつかれた。そばに金魚鉢もあり、農薬は使えない。この蒼黄金虫は枝を棒で揺ると、地面に真っ直ぐ落ち、土の中に潜り込む。枝を棒で叩き、落ちたのを捕まえる闘いが始まった。多い日には四十匹も捕まえた。

ところが、やがて、枝を揺ると、地面に落ちる前に飛んで逃げるものが現れ始めた。自然淘汰か、今では七割が飛んで逃げる。しかし、飛んで逃げて蒼黄金虫の生存率は高くなったが、枝を揺るのは人間には限らない。枝が揺れる度に逃げるので、おちおち葉を食べられないのだろう。斯くして、食害が減ってきたようである。

同じようなことはアメリカのイエローストーン公園であったという。狼がいなくなつて鹿が増え過ぎ、草地や森林の下草を食べ荒らして困るようになった。そこに狼を移入したら、狼が鹿を間引く効果もあるが、鹿は狼を警戒して一ヶ所に長く留まらず、食害が減ったそうである。